

BSOの 情報てんこもり

2025年05月12日号

制作・発行：(株)BSO 支援企画部

TEL：(06)6351-5836

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆高度人材・インターンシップへの取組み

4月にホーチミンを訪問しました。今回の訪越の目的は、現地の大学とインターンシップ・高度人材に関する進捗会議と、学生たちとの交流会でした。進捗会議では、大学の先生方と今後の具体的な取り組み方法について議論を重ねました。交流会では、インターンシップに参加した学生による報告発表に加え、日本で活躍している大学OBによる、日本での仕事や生活についての発表などを行いました。発表後には、日本でのインターンシップや就職の機会について、学生たちから活発な質問が飛び交い、日本企業で働きたいと考えている学生が多いことを改めて実感しました。

現在、BSOでは現地2大学と連携し、インターンシップ・高度人材の取り組みを進めています。今後、対象となる大学をさらに増やしていきたいと考えています。(BSO西山)



◆働き方改革は業務革新から取り組む

新たな業務は、不定時・非定型であることが多く、いわゆる「標準化」の検討が殆ど行われていない。従来から行われてきた業務についても、標準化の見直しが必要にされ、作業ごとに異なるやり方が目立つようになってきている。殆どの現代企業で業務の見直しが必要のようだ。

業務革新から着手する働き方改革では、まず、品質や作業工数が不安定でバラツキの大きい不定時・非定型な業務を、定型化することから始める。定型化の取り組みでは、道具の活用によって作業のバラツキを抑えるだけでなく、サイクルタイムの短縮を図る。また、素材や加工方法を見直し、複数の部品を一体化することで無人化を目指す工夫も検討したい。

働き方改革においては、「蒸発工数（実作業に結びつかない工数）」に注目する。また、作業者の心理的負担を軽減する観点から、作業リズムやラインバランスなどにも配慮した検討を進めていきたい。

◆事業の開発

これからの時代に、どのような事業が生まれ、どれが主力となっていくのかは現時点では予測が難しい。さまざまな変化が次々と現れ、未来の社会がどのような特徴を持つのかも見通しにくい。ただし、超長期的・マクロ的な統計データを見ると、近い将来、世界は超過密社会へと移行する可能性が高い。また、歴史的な経済格差が一層深刻化し、権威主義的な国家が増加する中で、国家間や地域間の紛争・対立も頻発することが予想される。これは、20世紀中頃に語られた「人類と地球の行き詰まり」（人口爆発、環境破壊、資源枯渇、戦争の激化 など、人類の活動が地球の持続可能性を脅かす状況を指す概念）についての警鐘を思い起こさせる。

このような状況の根本的な要因は、世界的にみると、おそらく過去300年間で人口が約10倍に増加した結果としての「超過密化」にあるだろう。それは、まるで培養皿の中で細菌が自己の排出する毒素によって増殖を阻まれ、やがて死滅してしまう現象に似ている。無理に増加を続ける場合には、毒素を強制的に除去する機構が必要となる。

今の地球は、まさにそのような臨界状態にあるのではないだろうか。人口を減らさずにこの時代を持続可能に生き抜くためには、人間が生み出す毒素（つまり、動脈産業による不必要な出力や排出物）を最小限に抑える「静脈産業（リサイクル・環境保全型産業）」の早急な整備と充実が不可欠であると考えられる。

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々に知っていただく為に発信しております。（お問い合わせは shienkikaku@bso.co.jp まで）

